



週報

Rotary
東京本郷ロータリークラブ 

2022-2023 年度 国際ロータリーテーマ 「イマジン ロータリー」

東京本郷ロータリークラブテーマ 「Reborn & Relax」

創立/平成3年3月13日(1991年)

事務局/〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-6-905 電話:03-3238-5350 FAX:03-3238-5352

インターネットホームページ:<http://www.t-hongo-rc.gr.jp> E-mail:office@t-hongo-rc.gr.jp

例会:毎週水曜日12時30分 例会場:ホテルメトロポリタンエドモント 電話:03-3237-1111

〒102-8130 東京都千代田区飯田橋3-10-8

会長:廣瀬英昭 副会長:松岡 浩 会長エレクト:栗原浩之 幹事:三浦謙吾 会報委員長:杉山和也

第1437回例会

2022年11月9日発行(No.1381)

本日の卓話(11月9日)

「スポーツを通して
ゆたかな社会をつくる」

株式会社 Sports SNACKS

代表取締役 佐藤 峻一 様

紹介者 上田 晋会員

次回の例会(11月16日)

「第5回クラブフォーラム」
テーマ「青少年交換について」

幹事報告

10月26日 第1436回例会報告

ビュッフェ例会

理事会報告

- 9月28日に開催された指名委員会において、2024-2025年度会長候補者として星野会員が選任されたことの報告がされた。
- 栗原年度の理事・役員報告を受け、理事会が栗原年度の理事・役員を選出・指名し公示すること、12月7日に年次総会を開催することが確認された。
- 2023年夏来日 青少年交換受入学生のスポンサークラブを受けることが承認された。
- 2024-2025地区大会実行委員会については、小出会員を実行委員長、秋本会員、本郷会員を実行委員会のメンバーとして進めてもらうことを確認。

※一部抜粋

- 前回の例会にて報告しました、嶋村ガバナーへ地区危機管理委員会開催を依頼しました件について、この度、地区委員会開催の取下げを申し出ました。
この件について、第5回定例理事会において説明をいたします。
理事会は、会員の傍聴は可能で歓迎いたしますので、ご参集ください。
第5回定例理事会は、11月16日 11:30開始 会場3F「せせらぎ」となります。
- 青木 秀会員の名簿シールが出来上がりましたので、メールボックスへ配布いたしました。
- 来週11月2日は休会となります。
次回の例会は9日ですので、ご留意下さい。

出席

会員数:47名 出席数:32名 欠席数:7名
出席免除者数:4名 特別措置出席免除者数:4名
出席率:82.05%

10月12日修正後出席率:75.75%

ビジター:1名

クラブゲスト:岡本正敏様(澤部会員ゲスト)

千 宰弘君(米山奨学生)

ニコニコBOX

- * **松岡 浩会員**
特別記念日のお祝い、ありがとうございます。
- * **本郷 滋会員**
杉ちゃん、例会参加良かったです。
- * **秋本康彦会員**
久しぶりに寒い那須から上京しました。杉さんお大事にしてください。
- * **小出 豊会員**
2024～2025 地区大会よろしくお祈いします。全員参加です。立川で開催予定です。
- * **古関伸一会員**
10月13日郷友会で優勝させていただき有難うございました。又、免許証更新のための認知機能検査はOKでした。
- * **澤部利藏会員**
誕生日のお祝いありがとうございます。岡本社長、ようこそ東京本郷ロータリークラブへ、ブッフエお楽しみください。
- * **鈴木嘉男会員**
私共の結婚記念日をお祝いいただき有難うございます。
- * **齋藤陽彦会員**
 - ①久しぶりに早く着きました。
 - ②久しぶりにネクタイしました。
 - ③食道癌手術から2年経過しました。転移はなさそうです

ニコニコBOX	30,000円
累計	461,828円

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

「ポリオ根絶の新兵器」 根絶へとさらに近づくための 改良型ワクチン

ロータリーWEB「ニュース&特集記事」より抜粋
<https://www.rotary.org/ja/>

2017年半ば、ベルギーのアントワープ大学病院の駐車場に組み立てられた輸送用コンテナの輪の中で、見知らぬ15人の二つのグループが28日間ずつ共同生活を送りました。彼らは本や映画、バーベキューができる小さな中庭、共同のキッチンとダイニングルーム、フィットネスルームを利用できましたが、そのすべてが安全なインターロック式ドアの向こうで、保護ガウンを着た職員の監視下に置かれました。

このサイエンスフィクションのような設定は、ポリオ根絶のための最新兵器である新型経口ポリオワクチン2型 (nOPV2) の臨床試験でした。この研究の目的は、約60年の間で初めて主要な改良が行われたポリオワクチンによって、変種ポリオウイルスとして知られるワクチン由来ポリオウイルスの感染が抑えられるかどうかを評価することでした。ワクチン由来ポリオは、経口ポリオワクチンに含まれる

弱毒化した生ウイルスが、ワクチン接種率の低い地域で循環し、ワクチンを十分に受けていない人に感染しうる危険な形態に変異した場合に稀に発生します。

ロータリーと協力団体がポリオ根絶をめざす**世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI)**において、この20年間に発生している変種ポリオウイルスが大きな障害となっています。ポリオの発生は、数千年の間、自然界を循環し、現在もアフガニスタンとパキスタンの2カ国にある野生型ポリオウイルスが引き起こすものとは異なります。しかし、結果は同じです。どちらの種類でも、稀にウイルスによって身体まひが引き起こされます。

2011年、GPEIのパートナーである**ビル&メリンダ・ゲイツ財団**のスタッフは、従来の経口ワクチンに含まれる生ウイルスに手を加え、変異する能力を抑えることはできないかと考えていました。「最初の課題は、純粋に科学的なものでした」と、この取り組みに資金を提供し、主導したゲイツ財団のポリオチーム副ディレクター、Ananda Bandyopadhyay氏は話します。「どうすれば、ワクチンの免疫原性(免疫反応を引き起こす能力)を損なうことなく、遺伝的に安定したワクチンを作ることができるのか。それは本当に、本当に難しいことでした。

この場合、研究者はこのアイデアをどのように検証するかを考えなければなりません。どのような試みでも、研究参加者を厳密に隔離する必要があります。2015年にブリュッセルで開かれた会議で、Bandyopadhyay氏は、アントワープ大学ワクチン評価センターのPierre Van Damme所長に、この大胆なアイデアを伝えました。「非常に創造的でなければなりません」と、ベルギーでVan Damme氏と共に臨床試験チームを率いることになるIlse De Coster氏は言います。「当時は封じ込めのために開発された施設を持っていなかったからです」

本日の例会にて、

ロータリー財団寄付	1名	10,000円
米山特別寄付	0名	0円

のご寄付をいただきました。
ありがとうございました。